

地域課題・目指す将来像

地域課題

- 対象となる榛原天満台地区は、最寄駅から徒歩30分で、高齢化率40%を超えるオールドニュータウン。団地内に高低差があり、徒歩移動が難しい状況
- 人口の減少、団塊の世代の引退等により路線バスが大幅に減便され、通勤・通学利用が困難
- 路線バスの維持確保のために、民間バス会社に対して年間50,000千円以上の赤字を市が負担しており、今後の市内交通の維持確保が大きな課題

将来像

- 全世代が住み続けられるまち

推進体制

名称：宇陀市未来技術実装事業運営協議会

地方公共団体	宇陀市、奈良県、奈良県警
国 (★は現地支援責任者)	国土交通省(★近畿地方整備局奈良国道事務所、近畿運輸局)、警察庁(交通局)、総務省(近畿総合通信局)、環境省(地球温暖化対策課)、経済産業省(近畿経済産業局)
民間事業者等	奈良交通(株)

課題解決に向けた取組

(写真・図：宇陀市提供)

未来技術を活用した移動手段の社会実装

⇒通院・買い物の利便性を向上し、全世代が住み続けられるまちの実現

①自動運転技術の導入事業【自動運転】

- ・ 自動運転技術(レベル4)を活用し、高齢者の移動が多い日中の時間帯を中心に病院やスーパー等を複数回周回することにより高齢者の移動手段を確保。

②県内他地域の実証と連携した遠隔監視体制の構築

- ・ 自動運転技術(レベル4)の実装を見据え、奈良県他地域を含む複数箇所での遠隔監視の実証を行う。

③住民参加型ワークショップの開催

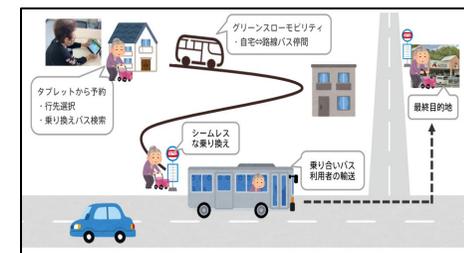
- ・ 住民の目線で、日常の移動手段の望ましい形について活発な意見交換を行う場としてワークショップを開催する。カートについてはカーシェアなど同様に地域主体での運用が望ましいことから、実現に向けた機運の醸成も図る場とする。

④AI技術を活用した顔認証による見守り・防犯システムの導入事業

- ・ 安心・安全に暮らせるまちを実現するために、AI技術を活用した顔認証による見守り・防犯システムの導入。



R6年度自動運転導入車両(株式会社ティアフォー提供画像)



通院・交通における予約の一元化イメージ図

① 自動運転技術の導入事業【自動運転】

取組内容

➤ 自動運転の実証実験実施（2023年12月4日～12月22日）

R5実証実験内容（結果）

利用者数：延べ **963**人 目標達成率：**327%**

西ルート：自動運転車両

- ・大和富士ホール⇔宇陀市立病院
- ・片道約2.7km
- ・10人乗りグリスロタイプ



西ルート：自動運転車両

東ルート：グリスロ(手動運転)

- ・大和富士ホール⇔
Aコープ榛原店・コーナン榛原店
※乗降場所は手前のポンプ場
- ・片道約600m
- ・7人乗りカート



東ルート：グリスロ（手動運転）



運行ルートと停留所（R5年度）

R6実証実験内容（予定）

- ・路車協調システムによる見通し不良箇所の改善
安全性・円滑性が重要視される箇所に路車協調システムを設置し、自動運転バスへ道路交通状況に関する情報提供を行い、自動運転バスの走行支援の有効性を評価します。
- ・信号連携による灯色認識低下箇所の改善
令和5年度年事業において西日による信号灯色認識機能の低下により手動介入が発生した信号交差点にて信号連携を実施することで灯色の認識機能を向上させ、円滑・安全な走行を目指します。

① 自動運転技術の導入事業【自動運転】

取組内容

➤ 自動運転の実証実験実施（2024年11月6日～11月23日）

R6実証実験内容（結果）

利用者数は延べ **1,331**人、1日あたり**83**人の利用があり、自動運転はR5年度実証の実績を**約2倍**上回る結果となった。

自動運転車両

- ・天満台東三丁目⇄榛原駅
- ・片道約4.3km
- ・13人乗り（ドライバー・乗務員除く）



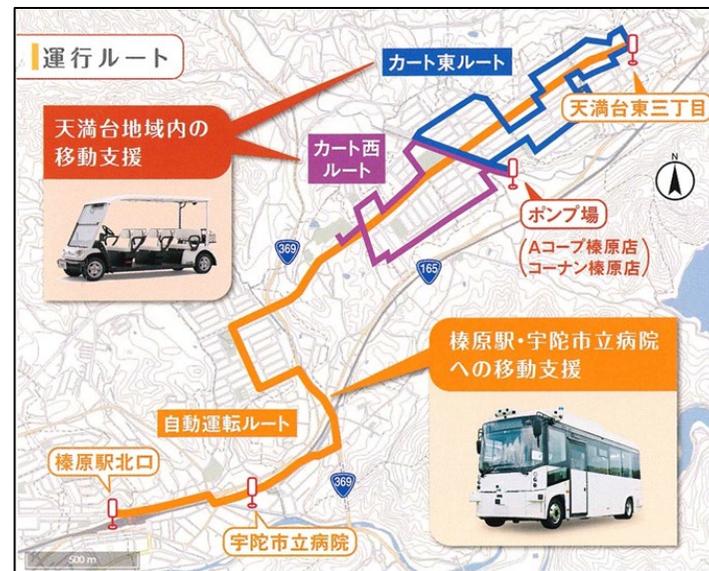
自動運転車両

グリスロ(手動運転)

- ・天満台地域内を周回
- ・西ルート（約2.7km）、東ルート（約3.5km）、各々1台で運行
- ・6人乗り（ドライバーを除く）



グリスロ（手動運転）



運行ルートと停留所（R6年度）

R7実証実験内容（予定）

- ◆ 令和6年度の検証結果を反映しつつ、レベル4自動運転バスの実装を見据え、**新たに以下に取り組む。**
 - 車両技術的に**全線でレベル4自動走行が可能なルートへの変更**
 - 県内他地域と同時期に実施し、**同時に複数地域を遠隔監視**
- ◆ 加えて、持続可能な運用を目指して住民参加のワークショップを開催し、**地域主導による運用体制の機運の醸成**を図る。